

水たまり

通巻 第19号



川渡祭・裸まいり

日本復興へ

宮司 竹間 宗磨

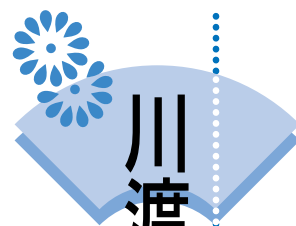
三月十一日の東北・関東地方を襲った大震災は想像を絶する、正に言葉を失うものでありました。心より御見舞い申し上げます。

触発されたかの如く甲信・上越地方をはじめ広範囲に全国各地で地震が発生。大切な家族や仲間を、家屋、田畑、車、船等多くのを失い、二ヶ月以上経った今でも生活基盤復旧回復の見込みの立たぬ状況。連日報道されるその様子を目にする度に、辛い痛ましさを感じ得ずにはいられません。しかし、一歩一歩復興への道を辿り始めています。

天皇皇后両陛下には、皇居において御自ら節電されるなど国民と苦難を共にされ、毎週避難所や被災地への御見舞いの御訪問をなされております。

当社においても災害復興の祈願祭を斎行し、毎朝の日供祭に祈願を重ねております。又、社頭では多くのご参拝の方々より連日御支援の暖かい御芳志をお預りし、既に幾度とその真心を関係機関を通じてお届け致しております。

御崇敬の皆様、共に祈って下さい。そして今出来る事から始めましょう。それが復興への力をよせる思いに、行動に、やがてすばらしい日本再生へと繋がることでしょう。



川渡祭(へこかき祭り)

〔六月一日・二日〕

川渡祭にお参りすると昔から高良大神様の御神護を普段に増して授かると伝えられます。茅の輪をくぐり、御祈祷を受け、更なる幸福の縁に結ばれますよう御案内申し上げます。

茅の輪くぐり神事

六月一日・二日の両日、午前七時・十一時にお祓いを受け、神職と共に茅の輪をくぐり、心身を祓い清めて、無病息災を祈ります。
茅の輪は一日の午前七時のくぐり初めより終日、ご自由にくぐる事ができます。



茅の輪くぐり

川渡祭特別祈願

六月中受付
川渡祭には還暦・厄年は元より家内安全・諸願成就の祈願を受付けております。

赤い肌物を身に付けて、昇殿いただき御祈祷を奉仕、特別祈祷札を授与致します。
祈願初穂料 五千円以上

川渡祭特別授与品

六月中授与



- 茅の輪守 (上)
- へこかき守 (下)



祭事のご案内 (六月〜九月)



川渡祭 (へこかき祭)

六月一日〜

前ページご参照下さい

夏越大祓式

六月三十日

日々生活している中で、知らず知らず犯した過ちや罪穢れを、紙で作った人形に移し、心身を抜い清める神事です。暑い夏を無病息災に過ごせるようにとの祈りも込めます。



奉納書道展

七月十八日〜

筑後一円の小・中・高校・一般の方々から毎年千点近くの作品が出版されます。審査の上、上位五百点を本殿、展望所の特別展示場及び久留米市内の特別展示場に展示します。十八日奉納奉告祭では出品者の書道上達、身体健康を祈念し、表彰式を行います。

愛宕神社夏祭 (山内末社)

七月二十三日

愛宕神社は、火の神として広く信仰されており、当日は氏子崇敬者多数の参列の上、火伏せ、火難除けの祈願祭を奉仕します。

献灯祭

八月一日

社殿前の百三十一段の石段(本坂)の灯籠に灯りをともします。御神慮を和め献灯奉納者の安全や事業繁栄を祈念します。

剣道大会

九月二十三日

久留米市内各地の小・中・高校より多数の剣士が参加、境内特設の会場にて学年別に竹刀を交え心と技を競いあい、交流を深めます。



市恵比須社例祭

九月二十五日

石造り夫婦の恵比須像をご神体としてお祀りするお社です。商売繁盛はじめ夫婦円満、良縁成就の祈願を奉仕します。



高良山通信

◆ 神社本庁表彰

前川博責任役員は、敬神の念厚く、多年に亘り高良大社の護持運営に尽力された御功績により、平成二十二年度神社本庁定例表彰を受彰されました。

奉納

算額 一面

長崎県大村市在住

日本数学史学会常任運営委員

米光 丁氏

平成二十三年五月一日奉納奉告祭

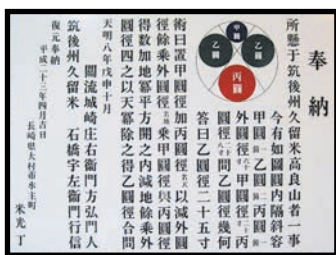
算額は神社佛閣に奉納した数学の絵馬で、江戸時代中期の頃よりの風習といわれます。

数学の問題が解けたことを神佛に感謝し、更なる勉学に勤しむことを祈誓し、奉納されたと伝えます。

数学者で名高い久留米藩第七代有馬頼徳藩主の時の数学指南役藤田貞資著「神壁算法」、また遊歴算家山口和著「道中日記」には、高良大社に算額三面の奉納があつたことが記されています。

が、現存しておりません。

この度米光丁氏より「神壁算法」に記載された算額一面が復元奉納されました。



兼務社紹介 高良下宮社



鎮座地／久留米市御井町387

祭神
高良玉垂命
孝元天皇
素盞鳴尊

高良下宮社は上宮(高良大社)と同じく履中天皇元年(四〇〇)の創建と伝えられています。

上宮(高良大社)を拜する山麓に鎮座し、平安時代には国司の司る名社で「高良宮下宮」と呼ばれていました。南北朝時代の天授三

年(一三七七)征西將軍宮懐良親王が願文を納められたことは有名です。久留米藩有馬家入国の際、神領を寄進され府中(現御井町)の氏神となりました。

現社殿は安政五年(一八五八年)十月、府中氏子中によって建立されたものです。中央に下宮社、向かって右に幸神社、左に素盞鳴神社(祇園社)があります。

幸神社は、孝元天皇を祀る社で子供の病に靈驗著しいとの信仰があります。素盞鳴神社は通称「祇園さん」と親しまれ、夏祭りには子供神輿で賑わいます。

下宮社の境内には、神仏習合時代神宮寺であった空福寺がありました。社殿のうしろ一帯から、平安時代頃の布目瓦等がよく採集されており、瓦葺きの建物があったものと思われまます。また、社殿裏の大樟の根本には、わが国の修験道の開祖、役行者像が祀られています。

◆境内社

粟島神社・秋葉神社
恵比寿像、役行者像

◆例祭

十一月十三日

高良山の信仰(二) お潮井

高良大社の信仰に「お潮井」があります。

『お潮井汲み』と称し、高良大社の井戸や山麓の清泉から「神水」を頂戴して、個人では、家屋や土地の清めに用い、或いは飲用し健康を祈り、また地区毎には、その地域の安全・疫病退散・五穀豊穡を祈るものです。

「潮井」とは神聖なる水のことであり、もともとは海水を汲み、その潮水を撒いて祓を行ったことからその名が起ったと言われています。さらに、海水や湧き水はもとより、砂や海藻をも含め称します。福岡県内博多近郷では海砂を用い、県外出雲地方では海水や海藻を用います。

水は人が生きるために必要不可欠なものであり、さらに、我が国の神道で伝える禊祓、仏教での酒水、キリスト教では洗礼等信仰の面においては清めに欠かせないものとしても太古より尊ばれてまいりました。

筑後国内には「五智の潮井」と呼ばれる神聖な水場が五ヶ所あり、その中の三ヶ所が高良山麓にあ

ります。高良の三泉として「朝妻の清水」「磐井の清水」「徳間の清水」と、今に伝えられます。

この三泉はお潮井の汲み場として大切にされ、高良山にお参りをして神水を汲むことが中世以降伝統風習となりました。

古来からは、毎日、所によっては月の初め夜明けと共に、当番の者や子供達、青年団が遠方より遙々「お潮井たご」という竹筒に潮井を汲み入れて戻り、地域の家を一軒一軒廻って門口にて神水を杉の葉で撒いて清めたと聞きます。



お潮井たご

もちろん現在でも境内の井戸を始め高良三泉の清水を汲みに各地より来山し、単にお清めのみならず、「高良大神様の御神護を頂戴する」信仰と重なって、今なお「お潮井汲み」の篤い信仰が受け伝えられています。

権禰宜 松本 長人

大学稲荷神社

御鎮座二四〇年



由緒

大学稲荷神社は高良大社の末社で「筑前・筑後稲荷十社の第一の社」と言われ、この地方で最も著名な稲荷社です。

上社・下社があり、下社は通称小学稲荷社と呼ばれ、上社を大学稲荷社と申し上げます。

起源は、明和八年（一七七一年）、時の高良山座主寂信僧正が京都稲荷神社（現伏見稲荷大社）から「大学」の神名を持つ稲荷大神を勧請、本年御鎮座二四〇年を迎えました。当初は山内愛宕山に鎮斎され「愛宕山稲荷」（現末社愛宕社）と称したが、慶応二年（一八六六年）現在の社壇を拓き明治八年（一八七五年）二月拝殿を建立、同年八月一日遷座され、以後商売繁盛・開運の神としても信仰を集めております。また、境内には上社・下社の他に三九郎稲荷社を始め多くの稲荷神様がお鎮まりになっております。

稲荷信仰のこころ

稲荷信仰の根元は、農業であり自然力への信仰であります。御祭神である「うかのみたまの

おおかみ」の神名は、いくつかの漢字に当てはめられ表現されませんが、稲霊であり、現れた姿がお米であります。

お米は日本人にとつて主食であり命の源であります。

古代お米は、財力、権力をも表しましたが、貨幣経済へと時代が移り変わると貨幣を得ることが主となり、それに伴い信仰も商いの繁栄へと移り変わります。

商いの繁栄は、生活の繁栄でありその基本となるものは衣・食・住であります。稲荷の神は、稲の神であるばかりでなく、衣食住の神として崇められ、生産の守護神としても信仰されております。

しかしながらこれに留まらず、その信仰には、多種多様な信仰形態があり、人々はこれらの中から森羅万象すべての生き物との共存共栄、生きることの大切さ、すべてのものへの感謝の心を学び得てきたのです。

稲荷信仰とは、人間の努力と実践とをもって結実し、日々の反省と感謝によって、その信仰は高められ明日への祈願と親和により、さらに、日々活力をあたえ、成長して行くものであります。

二四〇年記念事業

大学稲荷神社は、古くから「大學生さん」と親しまれ、身近な稲荷さんとして今日お祀りされてい

ます。

現在の鎮座地は「大學生さん」がお鎮まりになる以前から稲荷さんのお使い「おきつねさん」が現れ「おいなりさま」の信仰があったと言い伝えられている稲荷山です。

神社は過年、台風災害や社殿の老朽化による境内の整備事業として「大学稲荷神社整備事業」を発企いたしました。皆様方のご協賛により大学・小学・三九郎稲荷三社の社殿の改修、さらに、第二期工事として参集殿等の建設を進めてまいりました。

また、本年は、御鎮座二四〇年の佳年にあたり、稲荷山に相応しい境内を整備し、ご神恩を戴きご神威の発揚、稲荷様の光被を図るため朱鳥居の補修塗替え等諸事業を計画致しました。

この一連の事業は、境内の美化、施設の充実を図ると共に防犯防災にとめながら、稲荷様とご神縁を深めて戴くことを目的とする事業であります。

就きましては、何卒ご芳志のご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

【ご奉賛お問い合わせ先】

大学稲荷神社社務所

〒八三九一〇八五一

久留米市御井町二六〇八一
電話〇九四二一四三二四九三七

御祭神 倉稲魂神

◆祭典日

- 一月 一日 歳旦祭
- 三日 元始祭
- 十六日 三九郎社御田植祭
- 十六日 粥炊祭
- 二月初午日 初午祭
- 四月 六日 稲荷教春季大祭
- 六月三十日 夏越大祓
- 九月 六日 夏祭
- 十月十六日 稲荷教秋季大祭
- 十二月八日 冬籠祭
- 三十一日 大祓式・除夜祭
- 毎月 六日 月次祭
- 十六日・二十六日 縁日祭

高良大社崇敬会だより

【平成二十三年度総会開催】

発会より早くも四年目を迎えた高良大社崇敬会。年に一度の総会が去る三月十五日に開催されました。

三月十一日に発生した東日本大震災の被災者に対する黙禱に始まり、敬神生活の綱領唱和、国歌君が代斉唱の後、高良大社崇敬会の昨年度の事業・決算報告及び本年度の事業計画・予算案が審議され承認されました。高良大社竹間宗麿宮司による『高良大社振興について―地域の発展は高良山から―』と題する記念講演が行なわれ出席者一同熱心に聞き入って居りました。

高良大社崇敬会平成二十三年度の事業計画は次の通りです。

- ① 第一回伊勢神宮参拝旅行の実施
 - ② 神幸祭に対する勉強会の開催
 - ③ 境内及び旧参道整備修復工事
 - ④ 崇敬会大祭の斎行 であります。
- 尚、①の伊勢参宮旅行につきましては参拝団を結成し、去る二月二十五日、二十六日の一泊二日の行程で第一回を実施致しました。来年度以降も伊勢神宮をはじめ多くの神社への参拝研修旅行を企画致します。
- ②神幸祭につきましては、去る平成四年の五十年に一度の御神期大祭の規模を小さく、しかし充実した行粧として平成二十四年度から毎年

斎行するべく準備を進めて居りますが、地元篤信の方々と高良大社崇敬会が中心となり実施すべく勉強会を開催するものであります。

③境内及び旧参道整備修復工事につきましては、高良大社との共同事業として整備修復工事を現在、計画している段階であります。

④十月十日崇敬会大祭にて御神威を戴きます。

崇敬会の皆様には倍旧の御支援、御協力をお願い申し上げます。

【高良大社崇敬会入会の御案内】

高良大社崇敬会に貴方も入会しませんか。霊山高良山を父と仰ぎ、清流筑後川を母と慕って育まれた筑後の皆様方の熱き心意気を捧げてみましょう。

高良大社崇敬会の主な活動としては、毎年十月十日の崇敬会大祭に参列し、高良大社を物心ともに支援し、崇敬会が計画する各種事業を遂行することが挙げられます。

本年三月には九州新幹線が全線開通し、殊に高良山の山麓は平成二十四年春に九州自動車道久留米インターより県道バイパスが繋がります。是非とも崇敬会に御入会の上、高良山について熱く語り合いましょ。

第二回 高良大社崇敬会伊勢参宮旅行に参加して

高良大社崇敬会

副会長 松本 勝

高良大社崇敬会主催による第一回伊勢参宮旅行に参加させて戴いた。

井手会長・竹間宮司以下、参加者二十九名、永らく友白髪と陰日向なく支えてくれた妻とも一緒に一路中部国際空港へと飛び立った。

行程は二月二十五日(金)から翌二十六日(土)の一泊二日であったが、快く参拝旅行に送り出してくれた会社の社員に対しても感謝申し上げます。

初日は三種の神器を祀る愛知県名古屋市の熱田神宮に正式参拝、日本武尊の日本神話の思い出を熟々と振り返りながら二日間の旅程安全を祈念した。そして伊勢神宮外宮にお参りし、その日は鳥羽のホテルに投宿。

昼間の厳肅裡の参拝とは一転した和やかな懇親会もまた楽しい思い出となった。参加者の自己紹介では、会員同士普段なかなか聞けない裏話もあり、それは楽しいひと時であった。特に私の妻の紹介には、気恥ずかしい反面、感謝の念を新たにされた。

二日目は、伊勢神宮内宮の御垣内特別参拝、御神楽奉納は私にとって初めての経験であり、舞楽の荘重さにも心清められた思いであった。折りしも二年後、平成二十五年の秋には神様のお引越である御遷宮が控えていて、二十一年に一度の重儀が近づいている緊張感は堪らなかった。

伊勢神宮の神職の懇切なるご案内をいただき、天照大御神様の御神威益々輝きますこと誠に慶賀の至りに存じ

ます。内宮参拝の後は、おかげ横丁の散策、ここは凄い人波で『ええじゃないか』的な息吹を強く感じた。

神宮徴古館でも伊勢神宮に纏わる御神宝の数々を拝観し、本心に心満たされた二日間であった。

その二週間後には東日本大震災が発生し、一日も早い復興を祈念するばかりであります。お伊勢様、熱田様を初めとする神々の御加護により日本全体が飛躍するよう希う毎日であります。

来年度以降も、高良大社崇敬会では引き続き第二回、第三回と研修旅行を企画致します。崇敬会会員のみなさん、どなたでも参加戴けますので、是非とも御連絡をお待ちしております。



内宮 宇治橋前にて

大御心をいたただきて

大震災直後の東日本での計画停電の折、天皇皇后両陛下には、国民と困難を分かち合うとの御聖慮から、皇居にて自主停電をなされ、蠟燭やランタンの灯でご夕食をおとりになり、未だ寒き夕辺には、重ね着をされ寒を凌がれました。

毎週の避難所御見舞のご訪問では被災者を力付け、被災地へは、救援復旧作業に負担をかけぬようにとのご配慮から、ヘリコプターでの日帰りの行幸啓でした。

また、国民に向けてのおことは、ビデオを通じて賜りました。ビデオでのメッセージは初めてのことであり、これも途中で緊急情報が入った場合にいつでもそちらを優先させるとのご配慮と伺います。常に国民を御思い下さる大御心を拝し、今、支援復興に全力を尽くすべく国民が心ひとつに協力を致す時であります。

東北地方太平洋沖地震に関する 天皇陛下のおことば

(平成二十三年三月十八日)

この度の東北地方太平洋沖地震は、マグニチュード9.0という例を見ない規模の巨大地震であり、被災地の悲惨な状況に深く心を痛めています。地震や津波による死者の数は日を追って増加し、犠牲者が何人になるのかも分かりません。一人でも多くの人の無事が確認されることを願っています。また、現在、原子力発電所の状況が予断を許さぬものであることを深く案じ、関係者の尽力により事態の更なる悪化が回避されることを切に願っています。

を始めとする国や地方自治体の人々、諸外国から救援のために来日した人々、国内のさまざまな救援組織に属する人々が、余震の続く危険な状況の中で、日夜救援活動を進めている努力に感謝し、その労を深くねぎらいたく思います。

今回、世界各国の元首から相次いでお見舞いの電報が届き、その多くに各国国民の気持ち被災者とともにあるとの言葉が添えられていました。これを被災地の人々にお伝えします。

海外においては、この深い悲しみの中で、日本人が、取り乱すことなく助け合い、秩序ある対応を示していることに触れた論調も多いと聞いています。これからも皆が相携え、いたわり合って、この不幸な時期を乗り越えることを衷心より願っています。

被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆が、さまざまな形で少しでも多く分かち合っていくことが大切であろうと思います。被災した人々が決して希望を捨てることなく、身体を大切に明日からの日々を生き抜いてくれるよう、また、国民一人ひとりが、被災した各地域の上にこれからも長く心を寄せ、被災者とともにそれぞれの地域の復興の道の手を見守り続けていくことを心より願っています。

高良大社より 東日本大震災 義捐金募金のお願い

このたびの三月十一日に発生いたしました東日本大震災により、被災された皆様、心からお見舞い申し上げます。一日も早い被災地の復旧、そして復興を心よりお祈り申し上げます。

この震災を受け、高良大社では東日本大震災復興祈願祭を斎行し、少しでも被災者の方々の支援になればと、御本殿前において義捐金募金の受付をいたしております。ご参拝の折には、是非とも皆様の心あたったかのご協力をお願い申し上げます。

義捐金は、市役所・地元新聞社を通じて日本赤十字社に皆様のお気持ちを託し、被災地へとお役立ていただきます。



祭事報告

■歳旦祭・初詣

一月一日

午前零時に新年を告げる太鼓が鳴り響き、多くの参拝者が神前に詰めかけました。降雪の影響があるにもかかわらず、境内は、新年の幸せを祈る参拝者の熱気で満ち溢れました。



正月社頭風景

■玉替祭

一月十日

御祭神の御神徳の表われといわれる木製の「宝珠みくじ」授与では、各地の崇敬者の篤志もいただき、多くの参拝者で賑わいました。



宝珠みくじ授与

■鏡開祭

一月二十一日

正月神前に供えた鏡餅を還暦を迎えた善男善女が割り、ぜんざいとして参拝者にふるまいました。

■紀元祭

二月十一日

建国をしのぶ祝詞を奏上後、巫女による「浦安の舞」が奉納され皇室国家の弥栄と崇敬者の安泰を祈りました。

■子の日の松神事

二月十二日

上津荒木(現久留米市上津町)の本山の松苗が、同地区の大人、児童により古式ゆかしい装束姿にて運ばれ、境内に奉納植樹されました。

■祈年祭

二月十七日

古代より農耕を中心としてきた日本人にとって五穀豊穡を祈る重要な祭りです。農業はもとより、諸産業の生成発展をも併せ、参列者は実り多き年となるよう祈念しました。

■琴平神社春季大祭

四月十日

高良山の中腹、吉見嶽は大友宗麟、豊臣秀吉が陣を構えた戦国時代の要所です。桜満開の中、琴平神社にて春季大祭が斎行されました。直会では参列者が楽しい一時を過ごしました。



桜咲き誇る吉見嶽より市内を望む

■昭和祭

江戸千家久留米不白会献茶式

四月二十九日

昭和天皇の御聖徳を仰ぎ、国の繁栄を祈念致しました。併せて江戸千家久留米不白会による献茶式が斎行され、境内にて参拝者に薄茶の接待がありました。

色鮮やかな山内のつつじ
参拝者には境内にて久留米つつじをお頒ちしました

江戸千家久留米不白会お茶席

■山川招魂社春季大祭 四月三十日

高良山の麓、茶白山の山川招魂社にて春季大祭が斎行されました。参拝者各々が英霊に対し感謝の心を捧げました。

鎮守の杜

二月二十五、二十六日の高良大社崇敬会伊勢参拝旅行に同行させていただき、人生で初めての伊勢参りを経験しました。前日に外宮様で参拝ののちに内宮様にて正式参拝、そして御神楽の奉納。

私が高良大社の祭典の際に奉納させていただいている「浦安の舞」とは別の舞でしたが、ピツと正された姿勢や丁寧な足運びなど見習わなければいけないな、そう考えながらも、その端正な舞に見入ってしまいました。その他にもこの旅行で学んだことは多く、今回経験したことを活かしながら、巫女として頑張っていこうと改めて思いました。

また、今までなかなか話す機会のなかった崇敬会の皆様とたくさんお話できたことや、楽しかった「また行きたいね」との声をいただけたことがとても嬉しかったです。

事務局として至らぬ点が多々あったとは思いますが、皆様と一緒に参拝することが出来て本当に良かったです。

巫女 松井 瑞穂

「たまたれ」 通巻十九号

平成二十三年六月一日発行

発行者／高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地

電話〇九四二一四三二四八九三

FAX〇九四二一四三二四九三六